

## あか毛和牛枝肉販促会、特別推奨牛は単価3千円で成城石井購買

一般財団法人あか毛和牛協会（穴見盛雄理事長）は14日、平成29年度あか毛和牛認定農場枝肉販売促進会を埼玉県和光市の㈱アグリリス・ワン和光ミートセンターで開催。同販売促進会は全国のあか毛和牛の品質改良および生産技術の向上、普及拡大による地位向上と生産農場の経営安定を図ることを目的にしており、6回目となる今回は初めてアグリリス・ワンで開催された。

同協会では協会登録農家から出荷される牛を粗飼料の給与割合や飼育方法などで4クラス（星の数なし〜3つ）に分ける独自の評価基準を制定。肉質については赤身の割合が70%以上、BMS No.2〜4が求められる。

今回の販売促進会には褐毛和種23頭が出品され、厳正な審査の結果、特別推奨牛には池田章司氏（右写真左）の出品雌牛が輝いた。特別推奨牛は「星なし」、格付はA3、BMS No.4、枝肉重量は541kg。販売はちぎり方式で行われ、㈱成城石井がkg単価3千円で購買した。帯広畜産大学生命・食料科学研究部門の口田圭吾教授は審査公表で「雌の中では最も枝肉重量が重く、ロース芯面積も大きく、バラ厚もトップクラスだった。皮下脂肪は平均より若干厚かったが、ロース芯のまわりをみると筋間脂肪があまり入っておらず、まさにあか牛といった枝肉といえる」と評価。さらに熊本県農業研究センター畜産研究所大家畜研究室の江口敬子研究参事は「今回の出品牛は格付がすべてAで瑕疵もなく品質が揃っていたため、審査も非常に難しいものになった」と振り返った。

生産者表彰式で穴見理事長（右写真右）は「今回出品された枝肉については、プロの皆さまからみても異口同音にすばらしい、あか牛らしい枝肉ができています」と高い評価をいただいた」と述べ、さらに「今回の開催にあたってミート・コンパニオン、アグリリス・ワンの皆さまにさまざまな面でご協力をいただいた」と感謝の言葉を述べた。また、販売促進会後の懇親会では「皆さまのおかげで無事完売することができた。生産者の努力もあり、B等級がなく、瑕疵もないのは初めてという気がする。今後も行政からのバックアップなどもいただきながら、さらに努力を重ねていき、皆さまのご期待に応えたい」とあいさつした。

そのほか、推奨牛の出品者（クラス、性別、格付、重量、単価、買受人）は次のとおり。東洋一（星一つ、去勢、A3、566・5kg、2800円、㈱セントラルフーズ）、日置一誠（星二つ、去勢、A3、530kg、2800円、㈱つばめ）。

